

イザナキから会う？ ムラサキノウエから会う？



伊耶那岐命



紫の上

ヒーロー&ヒロインに会おう!

# 古典を楽しむ きっかけ大図鑑

監修◎ 齋藤 孝

全3巻

藤原道長

朧月夜の君

大国主神

- いざなきのみこと 伊耶那岐命 (古事記)
- おおくにぬしのかみ 大国主神 (古事記)
- ひかるげんじ かぐや姫 (竹取物語)
- むらさきうえ 光源氏 (源氏物語)
- おぼろつきよ 紫の上 (源氏物語)
- ふじわらのみちなぎ 朧月夜の君 (源氏物語)
- あべのせいめい 藤原道長 (大鏡)
- たいらのきよもり 安倍晴明 (古今著聞集)
- いっすんぼうし 平清盛 (平家物語)
- てんにん 一寸法師 (一寸法師)
- たろうかじゅ 天人 (羽衣)
- ふせひめ 太郎冠者 (附子)
- またはち 伏姫 (南総里見八犬伝)
- いしかわこえもん 喜多八 (東海道中膝栗毛)
- むさしぼうべんげい 石川五右衛門 (楼門五三桐)
- むさしぼうべんげい 武蔵坊弁慶 (勤進帳)

ほか、全54人 (43作品)

古典学習の  
スタートは  
この図鑑から!

# 古典の世界のヒーロー&ヒロインが大集合! ひと目で作品世界が見わたせる、 絶好の古典ガイドの誕生です!

## ●ヒーロー&ヒロインとクライマックス・シーンがひと目でわかる!

総勢14名のイラストレーターによる多彩な表現で、新しいヒーロー&ヒロイン像を描いています。一気に作品世界に近づけ、豊かな古典世界に親しむ「きっかけ」が生まれます。

### この本の特徴

1 日本の古典文学作品と能、歌舞伎、狂言、浄瑠璃、落語など古典芸能作品のなかから、魅力ある主人公や登場人物の一人をヒーロー、ヒロインとして選び、作品世界とともに、時代別3巻に分けて紹介します。

※人物は各巻18人、総計54人。「源氏物語」や「平家物語」など1作品から2~4人採るものも数点あり、作品数は総計43。

2 ヒーロー、ヒロインの人物像や作品の一場面をイラスト中心に描き、ほかの登場人物や作品全体を把握できるよう1作1見開きで構成します。

3 ヒーロー、ヒロインの性格やプロフィール、作品のあらすじや場面の説明はわかりやすく簡潔な文章でまとめています。コラム欄では作者や作品背景など、基本的な古典知識を伝えます。

4 対象は小学校中学年以上ですが、低学年の児童も楽しめるよう、漢字は総ルビにしています。小・中学校の国語の教科書でとりあげられている作品や作家も含まれています。

5 巻末には、作品を楽しむための資料、年表、読書案内、索引を付しています。



『古今昔聞集』より

### ●プロフィール

ヒーロー&ヒロインの性格や暮らしなどの情報を紹介します。

### ●あらすじ

作品のあらすじを簡潔に伝えます。



『源氏物語』より

### ●おもな登場人物

ヒーロー&ヒロインとかかわり、物語を彩るおもな登場人物を紹介します。

### ●注

むずかしいことばの説明や内容の補足、作品についての情報などを説明します。

## 『源氏物語』② 巻5 若紫

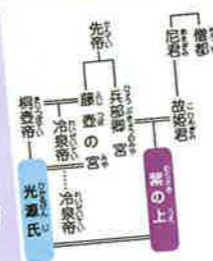
### 紫の上

#### わたしは、紫の上

父は兵部卿宮、母は按察大納言の娘。光源氏が慕っている藤壺の姪にあたります。生まれて間もなく母が亡くなり、祖母の尼君と、その兄の僧都のいる北山の庵で暮らしていました。光源氏と出会った紫の上は、その美しい様子を忘れられず、幼心に源氏を恋したようになります。やがて光源氏の正妻となります。

#### プロフィール

- ・発見：躰立ちが少女のころからかわいらしく、きわだっていた。
- ・結婚：14歳で光源氏と結ばれる。
- ・悩み：成人後、子どもをもてなかったこと。
- ・願い：出家を望むようになった。
- ・喜び：養女として引き取った女一宮(明石の姫君)の成長。
- ・最期：37歳で発病し44歳で亡くなる。



#### あらすじ

光源氏が18歳のころ、病氣治療のために北山にやって来ました。そのとき源氏は、自分が心から慕っている藤壺にそっくりな10歳くらいのかわいらしい少女(紫の上)を、ある僧都の庵の垣根越しに見つけます。源氏は、僧都から少女の身の上を聞くと、自分が彼女を引き取って育てたいと申し出ますが、紫の上が幼すぎるので、と祖母の尼君に断られます。さて、藤壺というのは帝の妻で、光源氏の継母です。藤壺を愛していた源氏は、彼女が病気で実家へ帰っていたときに会いに行き、強引に思いをとげます。藤壺は妊娠し、何も知らない帝は、さへん喜ばれますが、源氏は自分の子ではないかと不安になります。

そのころ、北山では、紫の上の母親がわりだった尼君が亡くなります。光源氏は、父宮に引き取られることになっていた紫の上を、奪うように自分の屋敷(二条院)に迎え入れます。源氏に守られ、紫の上の新しい生活がはじまります。

※1 紫の上の名は成長してからのもので、「若紫」の巻では「若紫のような姫君」と呼ばれる。「源氏物語」で紫の上が登場するのは、巻5(若紫)~33(藤壺東), 34(若紫上)~41(幼)。

【内容見本】  
第1巻「神話から物語へー奈良・平安時代」より(77%縮小)  
イラスト: つだなおこ



尼君

紫の上の親代わり。

光源氏が、小紫垣越しに内御をのぞいていると、少女(紫の上)が泣きながら走ってきました。尼君がなぜ泣いているのかをたずねたところ、少女は、伏籠の中に入れておいた雀の子を、召し使いの童女が逃がしてしまったからと言って残念がります。少女は、眉のあたりがぼんやりして、子どもらしい額の髪の生えざわがとてもかわいい。光

### コラム 『源氏物語』の作者・紫式部

平安時代中期の物語作者、歌人。生没年不詳。誕生は、970年、973年などの説がある。父藤原為時、母は藤原為信の娘。本名は不明。中では「藤式部」と呼ばれていたが、「源氏物語」が有名になり「紫式部」と呼ばれるようになった。3人の子どものうちに日本書紀、万葉集の編纂をめぐって学んでいたからその影響を受けて、文才も養われた。藤原の後半に藤原宣季と結婚し、一人娘を産むが、2年ほどで、夫は亡くなって

※2 紫の上はだれよりも長く光源氏に愛され、

### ●コラム

古典作品をより楽しむための豆知識を紹介。

# ●ヒーロー&ヒロインとクライマックス・シーンがひと目でわかる!

総勢14名のイラストレーターによる多彩な表現で、新しいヒーロー&ヒロイン像を描いています。一気に作品世界に近づけ、豊かな古典世界に親しむ「きっかけ」が生まれます。

### わたしは、紫の上

父は兵部卿宮、母は投籠大納言の娘。光源氏が慕っている藤壺の姪にあたります。生まれて間もなく母が亡くなり、祖母の尼君と、その兄の僧都のいる北山の庵で暮らしていました。光源氏と出会った紫の上は、その美しい様子を忘れられず、幼心に源氏を恋うようになります。やがて光源氏の正妻となります。

### プロフィール

- 外見: 顔立ちが少女のころからかわいらしく、きわだった。
- 結婚: 14歳で光源氏と結ばれる。
- 悩み: 成人後、子どもをもてなかつたこと。
- 願い: 出家を望むようになった。
- 喜び: 養女として引き取った女一宮(明石の姫君)の成長。
- 最期: 37歳で発病し44歳で亡くなる。

### 藤壺

わに北山にやって来まして、ある僧都の庵のら少女の身の上を聞くと、出ますが、紫の上が幼す源氏の継母です。藤壺を愛っていたときに会いに行くと藤壺は妊娠し、何も知らなは自分の子ではないかと不疑がわりだった尼君が亡くなることになっていた紫の上(念)に迎え入れます。源氏にまります。

ので、「若紫」の巻では「若草のような姫君」と呼ばれる。「源氏物語」で紫の上は33(藤原紫)、34(若紫上)~41(若)

### 名場面

光源氏に理想の女性として育てられるヒロイン

物語のなかの名場面を紹介。ヒーロー&ヒロインの身に起こったできごとから、さらにどんな物語が展開していくのでしょうか?ここでは、原文の一節も紹介し、現代語訳を付けています。

「雀の子を犬君が逃がしつる、伏籠の中に籠めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。

光源氏 時の帝・桐葉帝の第二子。美しい。

僧都 この庵の主。尼君の兄。

尼君 藤壺の親代わり。

紫の上

### 紫の上

光源氏が、小柴垣越しに内側をのぞいていると、少女(紫の上)が泣きながら走ってきました。尼君がなぜ泣いているのかをたずねたところ、少女は、伏籠の中に入れておいた雀の子を、召し使いの童女が逃がしてしまったからと言って残念がります。少女は、眉のあたりがほんやりして、子どもらしい額の髪の毛の生えざわがとてかわい。光

### コラム 『源氏物語』の作者・紫式部

平安時代中期の物語作者、歌人。生没年不詳。誕生は、970年、973年などの説がある。父藤原為時、母は藤原為信の娘。本名は不明。中では「藤式部」と呼ばれていたが、「源氏物語」が有名になり「紫式部」と呼ばれるようになった。両親ともに、歌人や学者などの家系で、幼少からその影響を受けて、文才も養われた。藤原半後に藤原家と結婚し、一人娘を産むが、2年ほどで、夫は亡くなった。

※2 紫の上はだれよりも長く光源氏に愛され、

### 石川五右衛門

おれは、石川五右衛門。安土を離れる途程、いろいろな人前に逢って、お宝のあるところへ乗りこむと、天崩にも自分の前手をあざむいて、見事に命を奪います。実は大前田の茶屋の子どもで、生き別れになった3人きょうだいのひとり、いきさつを知った五右衛門は、父前田の墓をばらしたために、真昼の夜を歩かされます。

#### プロフィール

- 本名: 安藤、白土系は藤原系を名乗る。
- 出生地: 武士(中野)。
- 父: 安藤。
- きょうだい: 3人きょうだいの末っ子。父前田の茶屋の子どもで、生き別れになった3人きょうだいのひとり。
- この物語: 藤原家と関係が深い。
- この物語の舞台: 京都(モデルは前田家といわれている)。
- 最期: 30歳で没。
- モデル: 安土山崎時代に実在した藤原の石川五右衛門、安藤の三太(藤原)といわれている。

#### あらすじ

川内川の舟の途中、女界の嵐に巻き込まれた早川高景は、そこにあった石川五右衛門の屋敷にたどり着いた。早川高景は、その日本を旅するに反対を企てていることを知り、早川高景は、早川高景の屋敷にたどり着いた。早川高景は、早川高景の屋敷にたどり着いた。早川高景は、早川高景の屋敷にたどり着いた。

### コラム 歌舞伎の舞台

五右衛門が「絶景かな……」の名セリをする。前田山門の場面は、はじめは五右衛門のいる2人きょうだいの屋敷に上っている。五右衛門が後を離れるところまで山門がせり上がり、1扉にたどり着く。五右衛門は、後を離れる。五右衛門は、後を離れる。五右衛門は、後を離れる。

※1 (読み) このあらすじは、白土系(藤原)系3巻に藤原の「源氏物語」(5巻)を参照した。※2 前田の三太(藤原)系3巻に藤原の「源氏物語」(5巻)を参照した。

### 監修者のことば

## 古典の登場人物になってみよう

### 齋藤 孝

(明治大学文学部教授)

古典を楽しむのに一番いいのは、登場人物になってみる。神話の神になったり、姫になったり、武士になったり。自分がヒーロー、ヒロインになった気分で読めば、古典はわかりやすくなる。この本は、ヒーロー、ヒロインの気持ちになりやすいように工夫しています。

イラストと説明で人物のイメージをつくって、あらすじを読む。そしてクライマックス・シーンを楽しむ。原文(昔の言葉)のところは音読してみてください。見開きでパッと古典の面白さがわかるようになっていきます。

『源氏物語』や『平家物語』のような物語から、能、歌舞伎、狂言、浄瑠璃、落語など、いろいろな作品を取りあげています。入り口はたくさんあります。この本をきっかけにして、古典の森に入って行ってください。一生の宝になる古典との出会いの場、それがこの本です。

(撮影: 有唯唯)

### 天下の大泥棒で天下人の命をねらうヒーロー

「絶景かな絶景かな。春の詠めは価千金とは小さむおたとえ、この五右衛門が目からは万両。」

石川五右衛門

前田山門の上、石川五右衛門はタバコを吐き出しながら通りを悠々と歩きます。周囲には花が咲き乱れた。藤原が泣いています。そのきらびやかな風景の中、「絶景かな……」と呟ります。白土(白いまだら)の藤原の運んできた茶屋で茶屋の主人が、そのふたりの敵である真昼の夜を歩かされます。そのとき、部下に命を奪われる。五右衛門は、後を離れる。五右衛門は、後を離れる。五右衛門は、後を離れる。

※1 (読み) このあらすじは、白土系(藤原)系3巻に藤原の「源氏物語」(5巻)を参照した。※2 前田の三太(藤原)系3巻に藤原の「源氏物語」(5巻)を参照した。